

2022年8月15日

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

第24号

# すくらんぶる

## 活動情報

- 8.25 例会企画交流会  
理事会
- 9.6 低学年部会
- 9.9 乳幼児部会
- 9.16 劇場代表者会
- 9.18 高学年部会
- 9.29 祭典推進会議
- 10.25 例会企画調整会議
- 11.11 劇場代表者会
- 11.27 乳幼児・大人研修  
ワークショップ

## 第21年度 通常総会

2022年6月10日(日)10:30~12:30  
諫早市中央公民館（市民センター）



新型コロナウイルスの感染が収まらないまま3年目となった今年の総会。特に制限は設けなかったもののそれぞれの状況の中で自然と絞られた参加人数での開催となりました。

団体正会員の各子ども劇場からは、コロナ禍にありながらも活発に活動をしている様子を聞くことができました。ながさき子ども劇場では、“子どもの声を聞く”をテーマに子ども委員会をつくり考えたクリスマス会や例会企画、55周年特別例会「ピアノの魔術師」では青年と大人たちのパワーが結集されました。乳幼児の例会に力を入れ丁寧な取り組みで会員を広げている佐世保子ども劇場、高学年例会のパネルづくりや子どもバザー委員会など青年や子どもたちの活躍が目覚ましい諫早子ども劇場。そしてリモート参加の老岐子ども劇場からは、5月例会「りんごかもしれない」で16名の新入会を迎えたとうれしい報告を受けました。離島という環境でコロナによる影響を特に大きく受けている中、どうにか子ども劇場の灯を消さないように考え合っていたいと語られました。

議長団選出後、議長から議決権総数20のうち、出席13、書面評決6、評決委任1で総会成立の報告があり、議事が始まりました。第1号議案（事業報告・決算報告）では、事務局長がこの1年を振り返り、依然として収束の見えないコロナ禍でも実施できた事業の成果や課題に沿ったまとめの報告がありました。第2号議案（役員選出）では、理事の中山智子さんと監事の中尾美香さんの退任が報告されました。常に会の理念に立ち返り県連の課題について深く考えるための示唆をくれた中山理事、また就任した当初NPO法人の監査のやり方を学んだという中尾監事、それぞれ9年・8年という長い期間役員を務めてくださいました。新年度より、ながさき子ども劇場の樋上淳子さんが監事に就任されることになりました。また新たな視点で忌憚のないご指摘をいただきたいと思います。

第3号議案（事業計画・予算）では、第21年度の方針に沿って事業計画が示されました。特に祭典推進事業についてはコロナ禍で継続していけるか心配し検討しましたが、事前交流をリモートで、事後交流はまとめ集を作成することに変え、コロナ以前の50公演に届かなくても30公演を取り組むことができたらなんとか実施できるという見通しを立てました。そして「子どもと生の舞台芸術の出会いをつくるとともに、子どもの文化を考えるネットワークづくりを広げる」という目的を再確認し取り組むことを決めました。また不特定多数が集まるのが困難なコロナ禍で団体公演の要望が寄せられたこともあり、これまで以上に舞台コーディネート事業も積極的に取り組んでいくことを確認しました。

県連組織の見直しについて昨年度から継続して意見を出し合ってきました。事業内容の検討もさることながら、事務局が抱える仕事量の課題も大きく、事業ごとに別の事務局を置いた実施体制に見直しをしました。新たな体制でのスタートとなりますが、理事会の中で確認をしながら進めていきます。

依然として続くコロナ禍の閉塞した状況の中でもこうして前を向いて活動が続けられるのは、一人一人の声を聞き活動できる会員制に支えられていることと、顔が見える関係の中で不安や悩みを共有し励まし合って進んでいけるからではないかと思います。今回初めて総会に参加した乳幼児をもつ母親が「子育て中の人に伝えたい。自分は支えられている。」との発言がありました。若い世代の会員との交流と学習も続けていきたいと感じました。



## 第27回長崎県子ども舞台芸術祭典

2022年7月15日(日)～7月30日(土)

第27回長崎県子ども舞台芸術祭典は、思いもよらぬコロナ感染者数の拡大が押し寄せ半月で1,000人台から2,000人台へと拡大する中、やむなく中止する公演、なんとか実施できた公演と苦悩の決断を迫られた祭典でした。結果、26の実行委員会が27公演を実施しました。スタートは、県北地区7/1(金)平戸島の最南端にある野子町での上演でした。三年前に観ていた「ピアノカの魔術師」の二回目の公演となります。閉校になった小学校の校歌をミッチャーさんに演奏していただき、観客みんなで歌い感動的な場面となりました。また、平戸市の生月町はこの祭典の第1回目から参加しています。今年は、お母さんと2才の女の子の参加がありましたが、役者の腹から出る声に驚いたのか泣いて出入口から動くことが出来ませんでした。しかし、音楽が鳴りだし役者が歌いだすと手拍子で楽しみ生の舞台の醍醐味を感じました。祭典最終日7/30(土)も、県北小佐々の公演。こちらも、昨年の祭典に引き続き「チカパンの大道芸」の連続の公演となりました。コロナ禍の中、工夫された演出で全く違う作品かと思うくらい楽しめました。公演中止となった二つの実行委員会、今年初めて取り組んだ実行委員会があり、来年また地域の皆さんに会えることを切に願いました。



県央地区の祭典は、中止と決断した25回で取り組む予定だった作品との出会いでした。県央地区では、諫早市・大村市・島原市・南島原市で8実行委員会9ステージに取り組むことができました。実行委員会の形態は様々ですが、コロナ禍の中で取り組みを決定し、会議を積み重ね、当日に臨むまで、どの実行委員会にも共通して流れていたのは、「様々な行事がコロナ禍で延期や中止。舞台芸術との出会いで子どもたちの心を元気にしたい！笑顔いっぱい思い出をつくってあげたい！」という大人たちの想いでした。昨年参加できなかった学童が今年は単独で取り組むという新たな展開もうまれました。昨年は2学童の取り組みだった夢と笑顔の王国の実行委員会に、新たな学童が加わり、7学童で2ステージが実現しました。保育園での公演は、感染対策をぎりぎりまで議論しながら無事当日を迎え、子どもたちが笑顔いっぱいになり、先生たちの想いがかなった時間になりました。諫早子ども劇場主催での公演は、会員だけでなく、会員一人ひとりが地域の方々へ声をかけ、幅広い年代で会場が一体となって鑑賞し、このような場の大切さを共に実感することができました。いつもの会場がワクチン接種の関係で使用できず、地域の教会を会場として使わせてもらった



実行委員会もありました。また地域の保育園、学童を対象に取り組んだ実行委員会も。どちらも人数は限られましたが、このような状況の中で生の舞台を届けられたということは、大きな成果だと思います。各実行委員会模索を積み重ねながら、公演をつないでいっています。祭典という取り組みが、子どもたちにとって地域で文化芸術に出会うことが日常になるきっかけになればと願います。

離島・壱岐と対馬でも5日5ステージを予定していました。壱岐子ども劇場主催の「ピアノカの魔術師」は、4年ぶりの再会を楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染者数急拡大が影響して、声かけをしていくことが難しかったようです。さらに当日は大雨に見舞われ来場を心配していましたが、予想を超えた86名の皆さんと一緒に2人の魂のこもった演奏と語りに心揺さぶられる豊かな時間を過ごすことができました。対馬市で予定されていた厳原南保育園主催の「サクラがいく！」2公演と対馬市教育委員会主催の「あそびにきてね」2公演は、残念ながら公演中止になりました。どちらも今回の公演を楽しみに準備されていたので、この楽しみは次回につないでいきたいと話されていました。



県南地区は、コロナの急拡大の影響でやむなく3公演が中止、追加1公演を含め7主催7公演の実施となりました。コロナ禍3年目となる今年も生の舞台を届けられることの貴重さと困難さを改めて経験することになりました。三井楽バラモンキッズ実行委員会では台風とコロナで中止が続く、4年目にして念願の「ピアノカの魔術師」を実施することが出来ました。小学生の時、愛知県でミッチャーさんの演奏を聴いたことがあるという子どもが今は高校生となり、三井楽で再びミッチャーさんと出会うという奇跡も生まれました。ある学童公演では、最前列に座った小学1年生の男の子が、平和へのメッセージを込めた最後の曲に涙ぐむという場面もあり、演奏者も大人たちも胸を熱くしました。また今年は近くの会場で無いからと、三重たのしまんば会の「チカパンの大道芸！！」に貸切バスで参加した学童クラブもありました。「今だからこそ子どもたちに生のお芝居を観せんばです」と指導員の先生のことば。「次はあの帽子被って！」子どもたちのうれしそうな声と笑顔で会場が溢れました。帰りには「また来年もお願いします！」との子どもたちの大きな声に、実行委員も祭典を続けてきたことの手ごたえを感じ「また頑張るぞ」と力をもらいました。この他の会場も生の舞台芸術との出会いに子どもも大人も生きるエネルギーをもらい、心に受け取るものがつまった祭典でした。



## わたしの『観る、観るとき、観れば』

子ども劇場は生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。

このコーナーは、子ども劇場の特徴でもある舞台芸術や文化との出会いについて、様々な角度から県内各地の子ども劇場の会員の皆さんに書いていただいています。今回は諫早子ども劇場の富永絵理さんです。

♥子ども劇場に入会して気づけば6年経ちました。今は親子3人でお世話になっています。お義母さんに劇場の存在を教えてもらったのがきっかけでした。当時長女が1歳前後の時です。私自身、生の舞台を観る経験がこれまでほとんどなかったのと、娘も泣かずに観られるかなあ…などと初めての例会はすごく緊張したのを覚えています。始めは「子どものために」と入会したのですが、例会に足を運んで行くたび私のほうが先に舞台鑑賞が好きになり、次の例会が大変待ち遠しい気持ちでした。一方、娘はというものの、大きな音で泣いてしまうことや、鑑賞の途中でもう帰りたいとぐずることもしばしばありその度に「まだ観るには早いのかな？他の子はリラックスしているの？うちの子は何でだろう？」と正直落ち込むこともありましたが、しかしそんな時には劇場のスタッフさんが泣いている娘や私に温かい言葉をいつもかけてくださり励まされました。当時を思い返せば、一人目の子育てということで、色々と慎重になり過ぎていた自分がいました。劇場では異年代の方とも知り合うことが多く、前向きな言葉をかけてもらうことで自分自身子育てへの考え方も少しずつ変化していき、親としての視野も広がってきたように思います。子どもの成長ばかりに期待せず、まずは親自身が心を開放して楽しむことを劇場に関わっていく中で体感していきました。子どもたちも今は5歳と7歳になり、2人ともすっかり劇場のことが大好きで、毎回大笑いしながら例会を鑑賞する姿は見ていて嬉しくなります。また劇を見終えた後の感想用紙にまだ字の書けない息子は印象に残った場面を絵で表現したり、例会後の車の中では感想を言い合うのがお決まりの時間です。親は全く気付かなかった人形の小さな仕草やセリフなどを覚えていたり、その子なりに色々と感じ取っているんだなど、びっくりさせられることも多いです。また、子ども劇場の良いところは、舞台を鑑賞するだけでなく、チケットをもぎったり、劇が始まる前のおやくそくをみんなの前に出て言ったり、その他にも劇団の方へのプレゼントや渡したり、片付けの手伝いなど、子どもたちも劇場の一員として例会を支えているんだなあ実感します。もちろんお当番は緊張もしますが、お友だちと一緒にやり遂げた経験はしっかりと自信になっていきます。劇場には我が子(孫)のように子どもの成長を見守ってくれる大人がたくさんいてくれる事が私にとってとてもありがたい存在です。これからも親子で色々な素敵な作品や人に出会い、育ちの場として劇場を楽しんでいきたいと思っています。

(諫早子ども劇場／富永 絵理)

## 子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名(団体名)	月日(曜)	開演時間	会場	主催
長崎OMURA室内合奏団 コンサート(5人編成) (長崎OMURA室内合奏団)	9月11日(日)	18:00	長崎県美術館ホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
はじめてのコンサート 『HO・GUI・UTA~寿歌~』 (リーフ企画)	9月25日(日)	11:00	上長崎地区 ふれあいセンター (長崎市)	ながさき子ども劇場
モテたい症候群 (岡田音楽事務所)	10月9日(日)	18:30	たらみ図書館海のホール (諫早市)	諫早子ども劇場
カッパの雨乞い (人形芝居ひつじのカンパニー)	10月30日(日)	15:00	アルカスSASEBO 第2リハーサル室 (佐世保市)	佐世保子ども劇場
たっちゃん紙芝居+(プラス) (マーガレット一家)	11月20日(日)	15:00	平和会館ホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
らくだ (はぐはぐ☆カンパニー)	11月22日(火)	19:00	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
オズのまほうつかい (人形劇団むすび座)	12月2日(金)	19:00	長崎市民会館文化ホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
イノシシと月 (劇団さんぼ)	12月7日(水)	19:00	諫早文化会館中ホール (諫早市)	諫早子ども劇場
アルカス リーディング.ndr (長崎ドラマリーディングの会)	12月11日(日)	15:00	アルカスSASEBO 第2リハーサル室 (佐世保市)	佐世保子ども劇場

**NPO 法人  
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26

北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

**県内子ども劇場**

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

**Web サイト**

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

**発行**

**NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会**

**0・1・2さいの人たちへ～あそぶ時間と観る時間 『かぜのうた』  
～乳幼児親子で楽しむ静かなわらべうたの世界～**

**<県内公演・ワーク日程>**

- 11/18(金) 壱岐「わらべうたワーク」
- 19(土) 壱岐「かぜのうた」
- 22(火) 寺田保育園「かぜのうた」
- 23(水・祝) 佐世保子ども劇場  
「かぜのうた」
- 24(木) 桜花保育園「かぜのうた」
- 26(土) ながさき子ども劇場  
「わらべうたワーク」
- 27(日) 諫早子ども劇場  
「かぜのうた」  
(午後)  
県連乳幼児活動部会主催  
「大人研修ワーク」



**★編集後記★**

27年続けている祭典。今回コロナの影響で7公演が中止になったが、子どもたちに生の舞台を観せたいと続けてきた実行委員会の方々にとってそれはどれだけ苦渋の選択だっただろうか。昨年のまとめ集にもコロナ禍での実施についての葛藤や喜びが書かれていた。「人数を制限せざるをえなくて、もっと多くの子どもたちに観せたかった」「こういう時だからこそ、できてよかった」「生の舞台から受ける感動は格別」子どもたちの育ちを見つめている地域の大人たちは、不安を抱えながらもどうしたら子どもたちに観せられるかみんなで悩んでいた。

中止を決断した所も思いは同じ。来年はきっと子どもたちの笑顔が見たいと願っているに違いない。生の舞台との出会いは子どもたちの成長に必要不可欠。そんな大人のネットワークを地域の方々と一緒に広げていきたいと改めて感じた27回だった。今年もまとめ集で取り組みの様子や写真が見られるのを今から楽しみにしている。(T)

**団体概要**

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2003年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある4つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

**子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！  
私たちは子どもの文化を応援します。**

<p>社会福祉法人 <b>小野保育園</b> 諫早市小野町 676-2 TEL0957-23-0120</p>	<p><b>ダイハツチバナ</b> 有限会社 <b>林田車体工業</b> 〒854-0126 諫早市松里町 288 TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378</p> 
<p><b>立石産婦人科医院</b> 諫早市栄町 7-6 TEL0957-88-0292</p>	<p><b>FURU YOYO</b> <b>古豊歯科医院</b> 長崎市小峰町 3-16 ☎ 095-843-4165</p> 
<p><b>ホテル ウイング・ポート長崎</b></p>	<p>〒854-0072 諫早市永昌町43-6 <b>医療法人 マツオ内科クリニック</b> TEL 0957-25-2225 FAX 0957-25-2220</p>